

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年 5月 25日

計画の名称	横手市における住環境整備及び水質保全の実現		
計画の期間	平成27年度 ～ 平成29年度 (3年間)	交付対象	横手市 (秋田県)
計画の目標			

秋田県生活排水処理整備構想に基づいた事業を推進するとともに、快適な生活環境の確保、自然環境の保全を図る。

計画の成果目標 (定量的指標)	①下水道処理人口普及率を48.5% (H27) から51.0% (H29) に増加させる。
-----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値				備考			
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H29末)					
①下水道処理人口普及率 下水道を利用できる人口 (人) / 総人口*100	48.5%		51.0%					
全体事業費	合計 (A + B + C)	283百万円	A	283百万円	B	C	効果促進事業費の割合	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
横手市下水道事業担当課により事業実施状況・指標の達成状況の確認および評価を実施。	計画期間終了後 (平成30年5月)
	公表の方法
	横手市のホームページにて掲載する。

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基幹事業												全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者		要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)							
										H27	H28	H29	H30	H31			
1-A1-1	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	横手第2-6処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=200mmL= 0.2km	横手市						0	
1-A1-2	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	横手第2-7処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=200mmL= 1.0km	横手市						8	
1-A1-3	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	横手第2-8処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=200mmL= 2.7km	横手市						173	
1-A1-4	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	横手第2-9処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=200mmL= 0.8km	横手市						0	
1-A1-6	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	増田第5処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=150mmL= 1.6km	横手市						0	
1-A1-7	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	平鹿第4-1処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=150mmL= 1.6km	横手市						63	
1-A1-8	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	雄物川第3-1処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=200mmL= 0.3km	横手市						9	
1-A1-10	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	設計	管渠実施設計 L= 2.0km	横手市						14	
1-A1-11	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	施設計画の見直し	効率的事業計画策定 認可変	横手市						15	
1-A1-12	下水道	過疎	横手市	直接	—	汚水	新設	十文字第2-2処理分区 (未普及対策)	汚水管 φ=150mmL= 0.6km	横手市						0	
											合計					283.01	

B 関連社会資本整備事業												全体事業費 (百万円)	備考				
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者		要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)							
										H27	H28	H29	H30	H31			
											合計					0.00	

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H27	H28	H29	H30	H31		
合計															
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・横手市の住みよい住環境及び水質保全の実現に寄与するため、計画的かつ効率的に下水道を整備することで、下水道処理人口普及率の目標を設定したが以下の要因により目標を達成できなかった。(下水道処理人口普及率が0.7%増加にとどまった)			
II 定量的指標の達成状況	指標①(下水道処理人口普及率)	最終目標値	51.0%	目標値と実績値に差が出た要因	本計画はH30から重点計画に移行するため計画年度を短縮して終了した。事業実施した区域で他事業との調整により供用開始できない箇所が生じている。予定していた事業費が確保できなかったことで効率的に整備できなかったことが重なり下水道処理人口普及率の目標値を達成できなかった。
		最終実績値	49.2%		
	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因		
	最終実績値				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					

3. 特記事項(今後の方針等)

・本計画においては、定量的指標を達成することが出来なかったが、実施済みで供用開始出来ない箇所においても供用開始の目途は立っているため今後処理人口普及率の改善が見込まれる。
 ・今後は、人口減少社会の到来等社会経済情勢の変化を踏まえた適切な汚水処理計画に基づき、引き続き計画的かつ効率的に汚水整備を行い、生活環境の改善、公共用水域の水質保全等、横手市の住みよい住環境及び水質保全の実現に寄与していく。